

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 企業物価指数(2012年4月)

発表日2012年5月14日(月)

～原油高の波及を背景に前月比上昇～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 エコノミスト 星野 卓也

T E L : 03-5221-4526

(単位: %)

		国内企業物価		最終財 (国内品)		国内企業物価 (連鎖指数)		輸出物価		輸入物価	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
10	10月	0.5	0.9	0.8	▲ 0.4	0.3	0.6	▲ 0.6	▲ 4.7	▲ 1.4	2.5
	11月	0.0	0.9	0.0	▲ 0.3	0.0	0.5	1.2	▲ 3.2	2.7	4.4
	12月	0.4	1.2	0.2	▲ 0.2	0.3	0.7	1.1	▲ 2.1	2.9	4.4
11	1月	0.6	1.6	▲ 0.2	▲ 0.1	0.5	1.0	0.1	▲ 3.5	2.8	5.5
	2月	0.1	1.7	0.1	0.0	0.1	1.1	1.1	▲ 1.5	1.9	8.2
	3月	0.6	2.0	0.4	0.5	0.6	1.5	▲ 0.1	▲ 2.0	1.7	10.0
	4月	1.0	2.6	0.2	1.2	0.8	2.1	2.2	▲ 2.9	5.9	9.9
	5月	▲ 0.2	2.2	▲ 0.4	0.7	▲ 0.2	1.6	▲ 2.0	▲ 2.7	0.5	10.2
	6月	0.0	2.5	▲ 0.1	0.8	0.0	1.9	▲ 0.6	▲ 2.1	▲ 1.7	11.0
	7月	0.0	2.8	▲ 0.1	0.9	0.0	2.2	▲ 1.4	▲ 1.1	▲ 0.4	13.3
	8月	▲ 0.2	2.6	▲ 0.3	0.7	▲ 0.2	2.0	▲ 1.8	▲ 1.4	▲ 2.2	13.0
	9月	▲ 0.2	2.4	0.0	0.6	▲ 0.1	2.0	▲ 0.8	▲ 1.8	▲ 2.0	10.9
	10月	▲ 0.5	1.6	▲ 0.4	▲ 0.6	▲ 0.5	1.2	▲ 1.1	▲ 2.3	▲ 0.6	11.8
	11月	0.0	1.6	▲ 0.1	▲ 0.7	0.0	1.3	0.1	▲ 3.3	0.1	8.9
	12月	▲ 0.1	1.1	0.0	▲ 0.9	▲ 0.1	0.8	▲ 0.1	▲ 4.5	0.9	6.7
12	1月	0.0	0.5	▲ 0.1	▲ 0.8	▲ 0.2	0.3	▲ 0.6	▲ 5.2	▲ 1.7	2.1
	2月	0.2	0.6	0.3	▲ 0.6	0.2	0.4	2.7	▲ 3.6	2.2	2.4
	3月	0.5	0.5	0.3	▲ 0.7	0.5	0.2	3.7	0.1	6.3	7.0
	4月	0.3	▲ 0.2	▲ 0.1	▲ 1.0	0.2	0.0	▲ 0.8	▲ 2.8	0.5	1.6

(注) 国内企業物価及び国内企業物価(連鎖指数)の前期比は夏季電力料金調整後の値。

(出所) 日本銀行「企業物価指数」

○ 4月の国内企業物価は前月比+0.3%、前年比▲0.2%

4月の国内企業物価指数は前年比▲0.2%とコンセンサス(同▲0.3%、レンジ: 同▲0.6%～+0.6%)を上回った。前年同月に高めの伸びとなった裏の影響から、19ヶ月ぶりに前年比マイナスとなった。

前月比をみると+0.3%と3ヶ月連続で上昇した。前月比の内訳をみると、プラスに寄与したのは、石油・石炭製品(前月比+3.4%、前月比寄与度+0.26%ポイント)、電力・都市ガス・水道(前月比+1.4%、前月比寄与度+0.07%ポイント)、農林水産物(前月比+2.5%、前月比寄与度+0.06%ポイント)など、マイナスに寄与したのは、鉄鋼(前月比▲0.9%、前月比寄与度▲0.05%ポイント)、化学製品(前月比▲0.5%、前月比寄与度▲0.04%ポイント)などであった。

石油・石炭製品については、3月にかけての原油の国際価格の上昇がタイムラグを置いて顕れる形で、ナフサやC重油が上昇した。また、電力・都市ガス・水道が大きく上昇しており、高めのプラス寄与となっている。資源価格上昇の影響に加え、大手電力会社による企業向け値上げが影響したと推察される。他方、鉄鋼は在庫調整の難航が重石となっている可能性が高く、軟調な推移が続いた。

○消費財の国内品は前年比▲1.3%

需要段階別指数（国内＋輸入）をみると、素原材料は前年比＋2.9%（前月比＋1.1%）、中間財は同＋0.3%（同＋0.5%）、最終財は同▲0.6%（同▲0.1%）となった。素原材料価格は、3月にかけての原油高の影響から、原油や液化天然ガスが前月比プラスとなった。また、原油高の波及によりナフサやC重油も上昇し、中間財も上昇した。消費者物価と関連が深い消費財の国内品価格をみると、前年比▲1.3%、前月比▲0.2%となり、前月比では3ヶ月ぶりにマイナスとなった。大きく前月比マイナスに寄与しているのは、血圧降下・血管拡張剤、消化器官用薬（医家向け）であった。平成24年度の診療報酬改定において、薬価が引き下げられた影響が出た可能性がある。

○原油関連製品価格の上昇を背景に輸入物価は前月比＋0.5%

輸入物価（円ベース）は前年比＋1.6%（前月比：＋0.5%）となった。年明け以降の原油高の影響から、4月は原油や液化石油ガス、ナフサが前月比プラスとなった。また輸出物価（円ベース）は前年比▲2.8%（前月比：▲0.8%）となった。2月ごろからの円高修正が一服したことから、輸出物価は小幅低下した。

○5月は調整が予想されるが、年後半には緩やかに上向いていく見込み

このように4月の国内企業物価は、石油・石炭製品などの上昇を背景に、3月から上昇した。このところの国内企業物価は、原油価格の高騰を背景に前月比では3ヶ月連続での上昇となっている。

先行きについて展望すると、5月はこういった動きの一服が予想される。これまで上昇の主因となった原油などの国際商品市況は、米国経済指標の不振や欧州債務問題の再燃懸念などから調整局面にあり、5月の国内企業物価は軟化する可能性が高そうだ。しかし、年後半には海外経済の持ち直しを背景に、国際商品市況の上昇が予想される。加えて、国内における鋼材の在庫調整の進展なども国内企業物価の押し上げ要因となろう。こういった動きを背景に、先行きの国内企業物価は徐々に上向いていくものと見込んでいる。

